

## 『ふるむ・マラウイ』～国境線～

23<sup>th</sup> /July/2011 第18号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ: チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

私の赴任地デッサはモザンビークに国境を接しており、巡回に行くエリアによっては本当に国境ギリギリを走ることもしばしばです。また、デッサは国道1号線(M1)沿いにある街ですが、M1も国境ギリギリにあるため、道路の向こう側はモザンビークということになります。活動中に国境を越えてしまうということはありません。しかし、国境付近の村の道路等では注意を払いながら走ることになります。モザンビークからは、ガソリンやワイン、スパゲティが入って来ます。南アフリカからの輸入品に比べ割安なので、私はモザンビーク製のスパゲティをよく購入します。またモザンビーク側からは、農産物の買い付けのため多くの仲買人がデッサへ来ているとのことでした。



国道1号線(M1)左上奥の道路の向こう側はモザンビーク



国境沿いのベンチマーク 道路側がマラウイ

マラウイではガソリン不足になることがしばしばですが、そんな時にどうしてもガソリンが必要なマラウイ人は国境沿いのブラックマーケットからガソリンを買うこともあるそうです。通常のガソリンの価格は、1リットルMK290ですが、ブラックマーケットではMK500以上もし、品質も悪いので、あくまでも緊急回避的な利用に限り、ブラックマーケットの利用は常態化することはあり得ません。

出入国管理局(イミグレーション)はデッサにあります。マラウイ南部の国境からモザンビークに入国した方が首都に近いこと、モザンビーク側から見るとデッサとの国境は僻地に近いため、モザンビークに向かう国際バスも本数は限られています。従って、モザンビークに旅行等に行く場合は、交通の便から南部国境を利用する機会が圧倒的に多いようです。

モザンビークの公用語はポルトガル語ですが、デッサ周辺に住んでいるモザンビーク人はほとんどがチワ族で、マラウイ側に商売に来ている人に聞いても、ポルトガル語はあまり話さないといっていました。日本に住んでいると、あまり感じることはありませんが、同じ民族(部族)で同じ言語を話す人が国籍が違うと言うことがすごく不思議というか、奇妙な感覚を覚えます。でも、マラウイ人もモザンビーク人も国境沿いの利点を上手に使いながら生活しているようです。例えば、モザンビーク人はマラウイの方が医療費が安いので、マラウイの病院を利用することもあるそうです。

日本では、国境を意識するということが少ないのでとても興味深く、ひしひしと身近に感じながら生活をしています。

